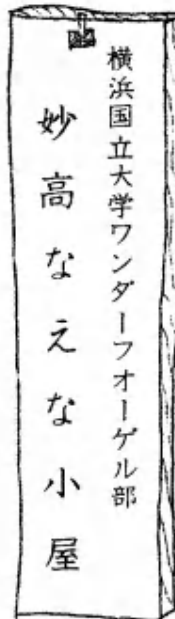


OB会報

第十号

横浜国立大学
ワンダーフォーゲル部
OB会発行
1968. 12. 1



!!完成

山葡萄の実が一房だけ残った梢からかけすが尾を引いてなえなの滝の方角に消えていった。初雪を覆って朝日に輝いていた妙高は今、霧につつまれている。正装なつた神主の祝詞があたりのもみじに吸い込まれてゆく。厳肅な式典が今まさに営まれつつある。

発案以来幾多の努力を重ね、ついに我々宿願の山小屋が完成したのである。雑木林をぬけて唐松林に入るところの藪を切り開いた地に建つ小屋は

た。

式の後、テラスの前で現役部員の準備になる祝宴を描し、来賓方々を交えた懇談に花が咲き、晩秋の午後を満喫し、三々五々と山を降りた。

尙最後に御多忙中にもかかわらず式典に御列席いただきました来賓各位の御芳名を記し、感謝の意を表します。

妙高高原町町長

遠 間 徳三郎 殿

最初から最後まで御尽力願い、今後とも直接にお世話になる地主の

岡 田 悟 殿

採算を度外視して建設を請自って下さいました

和信建設社長

竹 田 表 治 殿

同建設部長

岡 田 嘉 男 殿

同棟 梁

竹 内 殿

妙高高原町財産区管理会
会 長
竹 田 之 保 殿

妙高なえな小屋完成!!	1
山小屋遂に完成す!!	2
..... 郡司直樹	
関西から.....宮崎 敏	4
第二回OB会合宿総括	5
..... 密島英二	
夏合宿参加の記	6
..... 嘉納秀明	
斉藤伸一東南アジアを 行く..... 雀奴諸夫	7
柴田先生に藍綬褒章	8

山小屋遂に完成す!!

山小屋建設委員長

郡 司 直 樹 (四期)

幸い前夜来の雨もあがり好路から山小屋までの道を新設天に恵まれて、十月二十七日に私達の山小屋の落成式が、皆様方の絶大なご支援のもとに盛大に挙行出来ましたことを、喜びを込めてここにご報告致します。ご協力本当にありがとうございました。

さて、山小屋建設工事着工までの経緯はOB会報号外にてお知らせしてありますので、その後の経過報告の詳細から記します。

九月十五日に、建設工事着工後初めて工事状況の視察のため、現役部員が現地へ参りましたが、工事の方は末だ基礎工事が完了した段階で、建屋用の材木を目下製材中ということでした。この時バス道

衝、教職員との折衝、会社回

り、事業計画などが検討され、成果が出ています。まず学生部と折衝した件では、

山小屋を建てたことを大いに歓迎してくれて、来年度から

現物供与の形態で年間五万円の援助を受けることが出来る

ようになりましたし、平床山

在時代使用していた食器類も

払下げてもらいました。教職員との折衝では、経済学部長

の長州教授が山小屋建設の連動に協賛の意を表明され、経済学部教職員関係への働きかけを行なうて戴ける由です。

しかし工学部関係は学長が余り積極的に賛意を示してくれ

ませんでしたので、目下田中

部長を通じて働きかけを行な

っている処です。会社回りの

件では、成果がほとんど期待出来そうもなく、わずかに長

州教授から紹介状を書いて戴けるとの約束が成立しただけ

です。事業計画では映画会、

スキーバス、ダンスパーティー

会を行なう予定でしたが会場

が確保出来ないため中止し、

スキーバスも山小屋を利用し

て行なう案が諸般の状況から

今年度は非常に難しくなり、

目下ダンスパーティーを来年

一月十一日(土)午後一時

四時半に横浜クリフサイドで

開催することが決つているだ

けです。どうか当日出席可能

の方は是非現役に協力してあげて下さい。

十月中旬の試験休みには現

役が多勢にOBが二名程混つ

て現地の視察と、落成式に関

する諸準備のため現地へ参り

ました。山小屋の方は屋根の

カラートタンを葺き終つただ

けで末だ羽目板も床もついて

いず工事が幾分遅れていまし

たが、和信建設の方に二十七

日の落成式を申入れて確約を

とりつけて来ました。この時は現役も落成式のために当日小学校から机や椅子を借りる交渉をしたり、并当の予約、バスの予約を行ったり、小屋のまわりの整地、井戸枠の製作など大いに活躍したようです。

十月二十七日の落成式は、妙高高原町遠間氏、土地提供者の岡田氏をはじめ六名の来賓と田中部長を迎えて、OB側は、松本会長をはじめ二十名、現役は三十五名の出席で風薫る錦秋の空のもとで盛大に催されました。当日小屋は「妙高なえな小屋」と命名されました。名前の由来はすぐ近くに有名な「苗名の滝」があるところからきています。赤いピラミッド形の屋根が特徴で、名前のよく似合うユニークな小屋です。

三十九年に山小屋を建てたという声が芽生えてから四年たつた今やつと、此処に私達の山小屋が遂に完成したのです。この間の建設準備段階では建設予定地の選定、資金問題などで色々困難が待ち受けていましたが、皆様方の厚い支援を受けまして、OB、現役一致団結力を合せて山小屋建設が実現出来ましたことを山小屋建設委員一同心から感謝致しております。

山小屋建設委員会の使命もこれでやつと一段落したので、今後は十一月中旬に山小屋の検収、引渡しを済ませ、同時に契約金額の残金を支払い、最後に山小屋建設経過の報告書を作成して解散の予定であります。残金支払いの件では

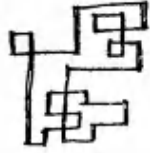
会員有志十名から総額五十万円を無利子で一時的に借り受けて、支払いに回すことになりました。どうか資金繰りの困窮している実情を考慮されまして、この機会に今一度未納の方に募

合計 一、五三六、六五〇円

完納者（敬称略、七月一日以降分）

一期）	藤岡 暉生
二期）	桑原 忠雄
	荻野 高子
	吉野 大次郎
	岩上 克尙
	氏平 裕子
	塚原 伸一郎
三期）	腰塚 典明
	金田 精彦
	諸節 紀代子
	森井 栄子
	高橋 俊吉
	斎藤 大樹
	栗田 武寿郎
四期）	牧原 洋
	斎藤 貞夫
	竹内 章二
	亀井 良夫
五期）	簗浦 英一
	所 絢子

- 羽島 継男
- 金子 洋吾
- 岡本 幸雄
- 谷合 成人
- (六期) 岡田 光豊
- 近藤 博昭
- (七期) 中島 正子
- 細田 隆
- 佐久間 明美
- 鈴木 博子
- 頭金納入者
- (二期) 西村 郁代
- (三期) 三神 広臣
- 石田 陽子
- (五期) 矢島 拓自
- (六期) 秋山 勉
- 原 隆
- 小木曾 克彦
- (七期) 白神 逸夫
- (八期) 佐木 誠夫



北山は今日も時雨ているよ。ことは大きな喜びでした。そら出かけて、嵯峨野や飛鳥路うです。竹藪の道をぬけて、して中途半端でなげ出してきを歩き、「無駄な時間」と落柿舎、二尊院、滝口寺を経ました山小屋も、無事に俊工「お金」を費しています。夏て化野の念仏寺へ、さらに清式が終り、肩の荷がおりたよには、淡路島、伊吹山、比良滝から清滝川に沿って保津峡うな気がします。山へ出かけました。近くの六まで。おやおやこの辺まで時 関西の地へ戻つて来てみま 甲山にも三回登りました。

雨が足を伸ばしてきました。すど、関東では味合えないよ OB会の関西支部としての活この前に来たときにも初時雨 うな日本情緒にふれることが 動を活発化しなければならなにあつて、茶店で買った小さ 暖々です。今日も嵐山の駅を いと思しながら、休日になるな傘に肩を半分づつぬらして 降りますと和服姿の娘さんが と僕自身が、「実業家」を開歩いたことを思い出し 放され、一人でキッネ

ます。今日はまた一人 ぼつちです。

関西から

綾 崎宮 (二期)

弘明寺のキャンパスで二年間の再修業も束の間、またも関西の地に寓居 目につきます。『イイナ』 山小屋の落成式では、事務

することになつてしまいました。と思いましたが。どうやら近く 局長はじめ、事務局会の諸兄た。四月一日に忽然と西の地 の天龍寺で大茶会が開かれて に大いに刺激されましたので、に現れ、大阪・高砂・大阪そ いたからのようです。こんな 来月には関西支部の忘年大ワして神戸と転々とし、やつと 案晴らしい西の地にながら、 ンダリングを開く計画をたて神戸に着いたところです。 毎日々は化学会社の開発研 ています。関東の方々も是非

大学にいた二年間は、嘉納 究で「実業家」の忙しさに退 います。お出かけ下さい。さらに京、先生の太いなる啓発を受なが いまわされて、日々「金の計 大和の古都を心ゆくまでコトら、OB会事務局の雑務係を務 算」に余念がありません。そ コト歩いてみて下さい。

め月例の行事が軌道にのつた して休日にはいつも朝早くか

第二回 O B 会合宿総括

密 島 英 二 (六期)

のしかかってくるような夜の山に目をすえて一点の明りを探す。耳をすまます。誰かが呼んではいないか。笹がサラサラ鳴る。誰かがポツンと言う。「彼等のことだあ、途中で降られて早々に燕に引き返してよ。万一頂上まで来たとしても小屋に行くなり、ピークなりしているよ。これしきで遭難なんかするようなら奴等じゃなし。」「まあそうだな。今頃ビールでも飲んでるだろう。」と語りながらも目は山に向けられている。昼間の雨はひどかった。しかしこんな暗い気持ちになるんだつたら、たとえずぶぬれになつても頂上までは行くべきだったのかな。しかし彼等はいやしくも Y W V の O B で

高谷池側と三田原山側の道をたどつて出発した捜索隊も寝息がきこえだした。ただ黙りこくつて帰つてきた。

鳥の鳴き声だろうか。目を

つたけど、今夜はこれを九人でたいらげてしまおう。昼間テントキーパーが千八百円もかけて釣り上げてきた目の下一尺くらいの鮭を数尾バター焼きにし、ビールを抜いた。いつの間にか座はにぎやかになり、何事もなかったかの如く喜々として食つて飲んだ。顔数が少くなつて一人の持ち分が増たと喜ぶ無責任ぶりである。それから一時してテストに入つて明日の手配を検討した。最悪の場合も想定されたが全てが樂觀的であつた。いや非観的要素がなかったと言うべきだろう。

ローソクを消してテントから顔を出してもう一度山を見た。黒い深々とした山がせま

た。黒い深々とした山がせま



夏合宿参加の記

嘉納秀明(二期)

岩に風が鳴つて、暗く寂とした頂上である。霧ははれな
い。なにやらの明神の祠のか
げでさきほどから待つている。
待つ人は来ない。

予定では八月十七日十二時
三十分笹ヶ峰牧場のテントか
らの合宿A班がこの妙高山頂
で燕温泉からのB班を迎える
ことになつている。ここにい
るのは私一人である。

燕から妙高へは一度のぼろ
うとしたことがあるが途中豪
雨に遇つてひきかえした。そ
のときに劣らずにふる雨であ
る。燕温泉でにぎりめしをた
べてあるきはじめたらふり出
した。沢の瀬音と岩と岩とを
めぐり白くわきかえる水、ぬ
れた山道のトケの葉、甘いよ
うな鼻をさす山のかをり、雨

は烈しく雷鳴がとどろいた
「登るだけだな」私はそう思
つた。

出かける前は笑つたりしや
べつたりにぎやかな山行にな
るとばかりおもつていた。偶
然だが私は一人になり、私自
身とむき合つてしまつた。自
分自身は重荷である、たちは
だかつている。私は霧のたち
こめた存在に入りこんだ。も
うけしてひきかえしはしない
だろう。

女の声で我にかえつた、登
つて来る途中、雨のために登
ろうかもどろうか立ちどまつ
て考えていた二人の女である。
私が頂上をこえてむこう側ま
でゆくといつたのであとをつ
いて来たのが、だんだん引き
はなしてしまつた。

地図をみせてもらうと笹ヶ
峰までだいぶ時間がかかりそ
うである。女達とはつかず離
れず歩いた。雨はもうやんど
いた。昨年の暮に十周年記念
登山でいつた大室山の頂上で
写真をとつたとき、現役の連
中にうしろから押されていた
めた左足がだんだんいたみ出
した。急な大倉東越をやつと
のぼつて三時二〇分に黒沢小
屋に着き、今夜はここに泊る
ことにした。

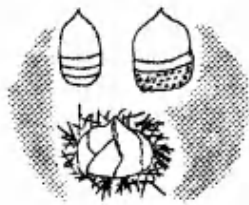
立派な小屋である。八角形
で太い柱が腰をはり、三階ま
である。二階で石油ストーブ
にあたり、となりの男たちの
梁ラーメンの議論を聞くとも
なく開いていた。そんな話を
誘う建物のつくりになつてい
る。

ふと声をかけられた。見れ
ば江崎君である奥さんと二人
連で、私と同じ道をきた。燕
温泉には彼の方が早くついて

いるが、最初の道がちよつと
ちがつて、私が抜いて来てし
まつたらしい。

その夜は小屋の娘達とトラ
ンプをやつたりキャンプファ
イヤーでさわいだりした。

翌日はよく晴れた。高谷池
から見る火打岳はすばらしく
是非のぼりたいものとおもつ
た黒沢までくだつたときキャ
ンプ場から来た井上君に逢つ
た。火打にゆくのだそうだ。
牧場のバス停までゆくと、バ
スをまつている皆に逢えた。
A班とB班は合流した。バス
はすぐ来た、合宿は終つた。



連載

齊藤伸一 東南アジアを行く

その一

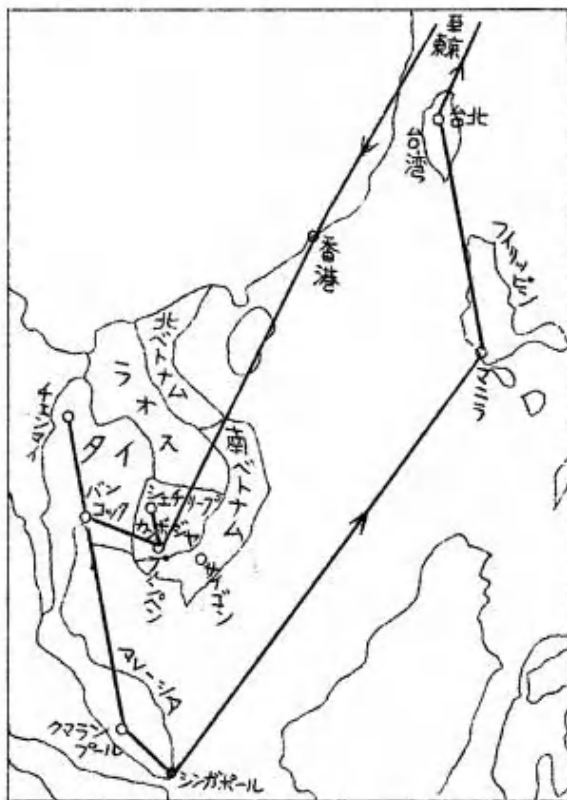
このたび齊藤伸一氏から東南アジア旅行の紀行文が寄せられましたので三回にわたって連載いたします。尚氏はこれを契機として雀奴諸夫全集「ワンダーフォーゲルと共に」も出版されて張り切っております。

期間 三月三十一日～四月一日

コース 香港→カンボジア→タイ→マレーシア→シンガ

ポール→フィリピン→台湾

編集部



◎目

香港は、他の東南アジア諸国と異なり、眼鏡をかけた人が多い。特に香港大学の学生は、男女ともほとんど眼鏡をかけている。

香港の案内は、フランク永井を案内したことがあるというクリヨン君にやつてもらったが、中心街で昼食をともにしたとき、あれが中共の密偵だと、隣のテーブルの男を指さした。ちらりと見たが一般の市民と見分けがつくような鋭い目ではなかつた。香港島正面の中国銀行玄関に掲げられた 毛主席万万才の文字、新界にある毛主席学校、時折見かける ショーウインドウの中の毛沢東語録などをみると、密偵とはいっても、大つびらに活動しているようだ。

アンコールワットのあるシエムリープの夜は暗い。電灯が少なく、あつても電力事情

が悪いためか、明るくない。

その中で、メコン川の支流域に、約五十米四方程、暗やみを破っている一角があつた。そこは、アンコールワットの模型を中心として、広場になつており、一隅では、エレキバンドに合わせたフォークダンスを踊っている。最初は、女性だけであつたが、そのうち、男性も恥しそうに加わる。別の一隅には、大きな建屋があり、その中で、踊り兼寸劇

のようなものをやっていた。坊さんがでてきたり、きらびやかな衣裳をまとつた女性がでてきたり、オーストラリアの動物として有名なコアラがでてきたり……。車座になつて楽器を叩き、歌う、裸の青年達を食い入るように見る目は、子供達も入れて、数百もあつたらうか。観衆と演技者の一体となつた中で、僕は、知らず、知らず、沖繩を思い

が少なく、あつても電力事情

だしていた。

ブーンベンでは、トンレツプ川に面したカンボジア王宮前で、スハルトとシアヌークのバレードが行なわれた。歓迎のために、かき集められた小学生女子の目はやはり、見物していた一米婦人の脚に注がれた。どうも、ストッキングが珍しいと言っているようである。僕も、カンボジア人にとつては、外人のはずだが、注視する人はいなかった。

◎耳

香港からブノンベン及びシエムリープまでは、ロイヤルエアーカーボッジ。エアームトナムもそうであるが、どうもエアーフランスの下請け的な存在のようだ。小さなプロペラ機で、スチエワードスは、フランス人一人、カンボジア人一人のみ。気密構造が悪いのか、飛行中、耳がガンガンしたのには参った。

台湾で面白いのは爆竹。どの車（人力車）だったたりする。こへ行つても、バンバンといふ音を聞く。行つてみると、葬式の行列だったたり、結婚式の車だったたり、統一地方選挙の車（人力車）だったたりする。香港のリヨン君に言わせると、中国人はにぎやかなのが好きなのである。

柴田先生に 藍綬褒章

横浜国大ワングーフオーゲル前部長として、またOB会の名誉会員として私どもになじみの厚い柴田先生に、このたび溶接工学を中心とする永年の功績に対して榮譽ある藍綬褒章が送られました。先生の今日までの御活躍をみるに当然のことと思います。私共としても本當にうれしく、この紙面をかりて、OB諸氏にもあらためて紹介いたします。

先生は現在武蔵工大教授として、御多忙な毎日益々御元気に張りきつておられますが、山歩きの方も今年は大勢の学生を同行して八幡平を縦走された由、若者顔負けの心意気で、先生の今回の榮譽を御祝い申し上げますとともに、御健勝とさらに一層の御発展を御祈りしたいと思います。

＊編集部より

会員名簿の改訂版が発行されましたが、ミスが多いようですので各自の記載事項を確認して下さい。若しミスがありましたら編集部へ御連絡下さい。次号会報に正誤表を載せる予定です。

編集後記

夏も終りだなあと思つていたら冬になつちやつた。秋がぬけたみたい。記事が珍腐化してしまふなあ。よし、今度公約しちやおう。次号は三月末に発行致します。M

OB会報 第十号

編集責任者 密島 英二
発行責任者 松本 正雄

印刷 横濱市鶴見区主麦三ノ五
板橋 勝 写 堂
電話 (五〇一) 一〇一六